

労務理論学会ニュース

労務理論学会ニュース 26号 2009.4.15
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
明治大学宮宇部共同研究室内 労務理論学会事務局
TEL 03-3296-2081 FAX 03-3296-4350
E-mail jal@m-kisc.meiji.ac.jp
URL http://www.soc.nii.ac.jp/jalm/n_jalm/

【目次】

1. 会長挨拶	1
2. 第19回全国大会（駒澤大学 深沢キャンパス）開催のご案内	2
3. 会員総会開催のご案内（役員選挙）	3
4. 秋の研究集会開催のご報告	3
5. 関西部会開催のご報告	4
6. 中部部会開催のご報告	5
7. 会員入退会動向	5
8. 労務理論学会誌への投稿論文の募集	6
学会事務局からのお知らせ	6

7月18日（土）・19日（日）

駒澤大学深沢キャンパス

全国大会（第19回大会）開催！



大会のメイン会場の概観

1. 会長挨拶

会長 黒田兼一（明治大学）

雇用破壊と研究者の責任

21世紀に突入してもうすぐ10年になります。この21世紀初頭の私たちの眼前で、100年に一度とも言われる経済危機の嵐が吹き荒れています。およそ10年前、トヨタ自動車の元会長で経団連の初代会長であった奥田 碩は「おかしな風潮」として次のように「嘆いて」いました。

「従業員のクビを切れば株価が上がる。しかも辞めさせる社員の人数が多ければ多いほど株価も高くなる」

（『文藝春秋』1999年、10月号）。

そのトヨタも今日では「おかしな風潮」に染まり、この1年間で期間従業員のおよそ3分の2を解雇しています。厚生労働省の発表によると、昨年10月以降に職を失った非正規労働者は、今年6月までの9カ月間に予定も含め19万2061人（3月19日現在）に達するといわれています。まさに「雇用破壊」が日本全土を襲っているのです。

ところでこの未曾有の雇用破壊・生活破壊が進行する真っ只中、新自由主義（市場原理主義）の急先鋒の一人であった中谷巖は、自身が推進した「構造改革」について、今更ながら、あれは間違いだったと懺悔しはじめています（中谷 巖『資本主義はなぜ自壊したのか』集英社インターナショナル、2008年）。しかし、この間の派遣切り、失業者、ネットカフェ難民、過労死（自殺）、凶悪な殺傷犯罪などを想起すれば、罪深いというほかありません。懺悔で済む話ではないと私は思うのです。荒木国臣は次のように批判しています。「なぜ自らの理論的誤謬が生まれ、それを政策的に宣揚して致命的な惨状を日本にもたらしたのか、という誠実な反省の作業がないのです。社会科学者としての存在そのものが問われている状況への自己認識の欠落に無自覚な姿は、ため息をつくような無責任の精神構造をさらしています」（愛知労働問題研究所『所報』第144号、2009年3月）。同感です。

その一方で、ロバート・ライシュは近著の中でこう

述べています。「私たちはこの超資本主義（市場原理主義）のもたらす社会的な負の面を克服し、民主主義をより強いものにしていかなくてはならない。そのためには現在の資本主義のルールそのものを変えていく必要がある」（ロバート・ライシュ『暴走する資本主義』東洋経済新報社、2008年）。

問題はその先にあります。雇用破壊・生活破壊の嵐が吹き荒れているいま、いったいどのようなルールをどのように構想し、どのように社会と職場の中に実現すべきか、社会科学の研究者としての責任の真価が問われていると思うのです。

本年7月の駒澤大学での大会統一テーマ「現代日本の働き方を問う——規制緩和下の労働と生活」での活発な議論に期待したい。

2. 第19回全国大会（駒澤大学 深沢キャンパス）開催のご案内

第19回全国大会実行委員長 光 岡 博 美（駒澤大学）

第19回大会は、学会ホームページや学会ニュース等で既にご案内のとおり、2009年7月17日（金）～19日（日）に、駒澤大学深沢キャンパスで開催されます。統一論題のテーマは、端的に言えば、市場万能主義ととりわけ労働法制の規制緩和が、ワーキングプアや長時間過密労働に象徴されるように、雇用・賃金・労働時間など重要な労働条件を劣悪化させ、現代日本における労働と生活を著しく破壊してきた事実をどのように捉え、人間らしい労働と生活の実現に向けてどのような取り組みが必要であるのかを議論するものです（なお、統一論題テーマの趣旨は、学会ホームページに掲載されております）。

そこで、統一論題では、①雇用と格差、②労働時間、③賃金と労使関係、④ジェンダー、⑤労働法制という5つの視点から、人間らしい働き方について検討する

こととなりました。ジェンダーの視点を取り上げるのは、現下の労働と生活にかかわる諸問題の矛盾が女性労働者に集中しているからです。

第19回大会の大きな特徴の1つは、規制緩和問題に詳しい研究者のみならず労働運動の最前線で活躍



キャンパス内の日本庭園

されている方々をお招きして、初日に特別シンポジウムが企画されていることです。労働政策や規制緩和の最近の動向を把握するとともに、労働と生活の改善に向けて今こそ運動主体としての役割が問われている労働組合の生の声を聞ける機会となり、統一論題での議論が活性化されるものと確信しております。また、今般のアメリカ発の金融・経済危機は市場万能主義の破綻とみられますが、それを受けて今後の展開方向を考える場になると期待しております。

自由論題では、主として若手研究者による意欲的な研究報告が予定されています。また、労働法制や労働社会保険諸法令の変化に伴う現実問題に詳しい社会保険労務士の方々にご報告いただく社労士分科会、加えて、アメリカと日本の格差・貧困問題に関する近年

の著書を対象とした書評分科会も設置されます。

第 19 回大会は、開催校の都合で真夏の暑さが予想される 7 月中旬の開催となり、大変恐縮に思っております。しかし、プログラム委員会の時宜を得たテーマと枠組み設定のもと充実した報告が予定されており、まさに真夏のあつい議論が展開できるように実行委員会一同準備をすすめてまいります。また、深沢キャンパスには、四季折々の表情をみせる日本庭園や茶室などがございます。懇親会会場はこの日本庭園に臨むホールを予定しておりますので、皆様のご出席を心よりお待ち申し上げます。

なお、詳細なご案内は、5 月中旬ごろにお手許に送付させていただきます。今しばらくお待ちください。よろしくお願いいたします。

3. 会員総会開催のご案内（理事の選出選挙）

総務理事 平 沼 高（明治大学）

第 19 回全国大会 7 月 18 日（土）会員総会において、第 6 期役員（'06～'09）任期満了にともない、第 7 期理事（'09～'12）を選出致します。労務理論

学会会則第 12 条に基づき理事の選出選挙を行いますので、会員の皆さまにはご出席をお願い申し上げます。

4. 秋の研究集会開催のご報告

会 長 黒 田 兼 一（明治大学）
総務理事 平 沼 高（明治大学）

昨年の総会で、年一回の大会および地方部会とは別に、本部企画として「研究集会」をもつことを決め、11 月 1 日に明治大学の紫紺館で「'08 フォーラム「労働法制の規制緩和と労務管理」」を開催しました。

本学会、社会保険労務士連合会総合研究機構と明治大学経営学部とで共同開催したものです。

午前中には全国社会保険労務士会連合会の大槻哲也会長による記念講演「社労士法制定 40 周年を節目に社労士業の未来」および、この講演をめぐって、広浜泰久氏（中小企業家同友会幹事長）、宮城

準子氏（社労士東京会）、森川譚雄氏（広島修道大教授、前労務理論学会会長）、森田慎二郎氏（東北文化学園大准教授）によるパネルディスカッションが行われました。午後からは労務理論学会と社労士総研とが別々の会場でシンポジウムを開催しました。学会のシンポのテーマは「労働 CSR と労務管理」で、香川孝三氏（大阪女学院大学教授）が「労働 CSR と労務管理」、龍井葉二氏（連合・非正規雇用労働センター総局長）が「労働 CSR の強化と労働組合の課題」、そして白井邦彦氏（青山学院大学）が「雇用保護法制は雇用が悪影響を及ぼすか」



パネルディスカッションでの森川譯雄会員 (右)

と題してそれぞれ報告された。これらの報告に対して松丸和夫氏 (中央大学教授) と百田義治 (駒沢大学教授) がコメントされた。その後、フロアからの意見を交え活発の討論となった。1時から5時半までの約4時間半という長丁場のシンポジウム、途中20分の休憩が入ったものの、しかしその時間を感じさせない活発な議論が交わされました。

参加者は全体の130人余りでしたが、多少学会側からの参加者が少なかったのは心残りでした。しかし関東近県の会員だけでなく九州、京都、北海



(左から) 香川孝三氏、龍井葉二氏、白井邦彦会員

道の会員、また他学会からも数人参加してくれたことは嬉しい限りです。

こうして初めての企画でしたが、活発で熱い議論が交わされたこと、私たちの学会としては初めて連合からの報告が聞けたこと、さらに企業 (特に中小企業) の現場で労使の間に入って日々苦慮している社労士の方々の生の声が聞けたこと、秋に相応しく「実り」多いシンポジウムでした。午後6時過ぎからの懇親会では会場一杯に語らいの輪が広がり、8時過ぎまで歓談しました。

5. 関西部会・管理論研究会合同例会開催のご報告

幹事 守屋 貴 司 (立命館大学)

2008年12月21日(日)に、キャンパスプラザ京都6階 第1講習室にて「労務理論学会関西部会・管理論研究会合同研究報告会」が午後13時半から午後17時まで開催されました。

管理論研究会は、関西において伝統ある研究会であり、研究会の構成メンバーも数多くおられる研究会であり、管理論研究会として、編集された共著も数多くある研究会です。長年、立命館大学の山下高之先氏が世話役をされてこられました。現在は、仲田正機氏を経て、管理論研究会の世話人を稲村毅氏 (神戸学院大学) が務められると同時に、井上秀次郎氏 (愛知東邦大学) が事務局をされておられます。

同合同研究報告開会では、黒田 兼一氏 (明治大学) が「GMのリーン生産システムとUAW」として第一報告をされると同時に、安井 恒則氏 (阪南大学) が「GMサターン社の労使パートナーシップと日本型経営」として第二報告をされました。

坂本清氏 (宝塚造形芸術大学) が司会を務められ、第一報告、第二報告の後に、討議をおこなわれましたが、大変、熱心な議論が展開されました。特に、2008年12月に、存続が危ぶまれたGMを巡るご研究報告でありましただけに、GM破綻の問題や市場原理主義の行き詰まりや今後のアメリカのオバマ政権後のアメリカの労使関係を巡る動向についてまで論議が及び意義の高い研究報告会であったとの声に参加からあが



関西部会・管理論研究会合同例会の様子

っておりました。参加者も12月の師走という多忙な時期にもかかわらず、関西のみならず中部地域などからの参加者がみられ、新しく労務理論学会に入会された院生の方の参加までもあり、27名の方が参加されてました。

そして、労務理論学会関西部会・管理論研究会合同研究報告会の後、忘年会をかねた懇親会が、場所を変更しおこなわれ、大変、和やかな雰囲気でおこなわれ、会員の親交をより深めることができました。

労務理論学会関西部会も、第一回目が春の3月に同志社において開催されてから二回目となる関西部会であり、地域部会活動として、多くの参加された会員の方が根つきつつありまたの参加を強く希望されておられました。

6. 中部部会・中部企業経済研究会合同研究会開催のご報告

幹事 竹田昌次（中京大学）

2009年3月14日（土）、中京大学（名古屋学舎）センタービル8階（08A教室）において、中部地区研究会（JALM地方部会）が開催されました。

報告者とテーマは次です。山本大造（愛知大学）「日本のエアラインにおける乗員の賃金問題」、森川章（名城大学）「ニューデール期におけるデュポン社の労使関係」

労務理論学会中部部会の第1回目の研究会を、中部企業経済研究会との合同研究会として開催しました。参加者は15名、研究報告・討議とも内容の濃いもので予想を超える長時間の充実した研究会となりました。また学会本部から頂戴した地方部会開催にかかる補助金につきましては、研究会での茶菓子等に利用させていただきました。有り難うございました。今後とも、緩やかなペースではあれ、第2回、第3回と継続していきたいと思っております。

7. 会員入退会動向

Web版では氏名の公表は省略させていただきます

入会者

5人の方が入会されました。

退会者

3人の方が退会されました。

8. 労務理論学会誌への投稿論文の募集

学会誌編集委員長 平澤 克彦

『学会誌』第19号(2010年2月発行予定)に掲載する投稿論文を下記の要領で募集します。会員であれば大会報告者でなくても投稿できます。

投稿を希望する会員は、「**投稿規定**」に従って、労務理論学会誌編集委員長宛てに、期日までに簡易書留で郵送して下さい。

- (1) 論文の種類；研究論文、研究ノート、書評、その他
- (2) 提出締切；2009年8月20日(木) 締切り
- (3) 送付先；〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学研究棟6F
 労務理論学会事務局気付 学会誌編集委員長 平澤 克彦

jalm@kisc.meiji.ac.jp

- (4) その他；論文は筆者名を厳密に秘匿して審査されるため、投稿者は本文中に執筆者と分かるような記述(氏名など)を避けるように注意して下さい。

事務局からのお知らせ

- (1) 今年の全国大会(第19回大会)は、例年とは違い、**7月18日(土)・19日(日)**に開催されます。開催校は駒澤大学です。

- (2) その全国大会の初日夕刻には会員総会があります。今年は役員改選の年です。多くの会員が参加されますようにお願いします。

- (3) 大会報告の予稿集は事前送付しません。大会当日の受付で配布する予定です。

なお、それまでは学会のホームページ

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalm/n_jalm/09.html

の「会員専用ページ」に掲載されます。このページに入るにはパスワードを入力する必要があります。パスワードは「●●●●●●●●」です。この8文字を入力し、「パスワード」部分をクリックして下さい。

- (4) 春のこの時期、会員の移動が多いと思われます。所属や住所変更などがあった会員は次までお知らせ下さい。

学協会サポートセンター

〒231-0023 横浜市中区山下町194-502

Eメール：scs@gakkuyokai.jp

- (5) 全国大会が例年よりも約1ヶ月遅くなっていますので、投稿論文締切もそれに合わせて遅らせます。

提出締切 2009年8月20日(木)

また役員改選が行われる関係で現在、論文の送付先が確定しておりません。決まり次第ホームページに掲載しますが、それまでは学会本部まで送付下さい。

送付先

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学研究棟6F 労務理論学会事務局気付
 学会誌編集委員長 平澤 克彦

jalm@kisc.meiji.ac.jp